



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	漢語の表記と古辞書の位相：「豆腐」の場合(fulltext)
Author(s)	高橋,忠彦; 高橋,久子
Citation	東京学芸大学紀要. 人文社会科学系. I, 69: 196-174
Issue Date	2018-01-31
URL	http://hdl.handle.net/2309/148739
Publisher	東京学芸大学学術情報委員会
Rights	

漢語の表記と古辞書の位相

——「豆腐」の場合——

高橋 忠彦*₁
(中国古典学分野)

高橋 久子*₂
(日本語学・日本文学分野)

要 旨

中国より実物とともに伝わった「豆腐」という語は、日本ではその字音を当てた「唐符」「唐布」のような異表記を生じたが、やがて元来の「豆腐」が主流となった。また、「白壁」という異名も生じた。本稿は、「豆腐」と、その異表記や異名の語誌につき、中世の古文書、古記録、古辞書を中心に検討したものである。また、そこから、古辞書の位相的分析を試みた。

キーワード：古辞書、豆腐、漢字表記、古文書、古記録、語の位相

一 中国の「豆腐」

実体としての豆腐がいつ頃から生産されたかは確定できないが、言葉としては北宋初の陶穀(903～970)の『清異録』の「小宰羊」に「時戢為青陽丞、潔_レ已勤民、肉味不給、日市豆腐数箇。邑人呼豆腐為小宰羊」とあるのが最古とされ

(注1) 時戢(人名)が青陽県(安徽省池州市)の副官になり、清廉にして、民のために働いたので、肉を十分に食うことができず、毎日豆腐数個を買って食べた。そのため、青陽県の民は、「豆腐のことを「小宰の羊(副知事殿の羊肉)」と呼んだということである。

この「豆腐」という語が、「豆でつくった腐」という意味合いであることは、

*1 東京学芸大学 日本語・日本文学研究講座 中国古典学分野 (1878810) 小金井市貫井北町4-1-1
*2 東京学芸大学 日本語・日本文学研究講座 日本語学・日本文学分野

蘇頌の『図経本草』(1061)に、「豆性本平、而修治之便有数等之効。煮其汁甚涼、可以压丹石毒及解諸藥毒。作腐則寒而動氣、炒食則熱、投酒主風。作豉極冷、黄卷及醬皆平。牛食之温、馬食之涼、一体而用別、大抵宜作藥使耳(豆性は本と平なるも、これを修治すれば便ち数等の効有り。其の汁を煮れば甚だ涼にして、以て丹石の毒を压し及び諸藥の毒を解すべし。腐と作せば則ち寒にして氣を動かし、炒りて食せば則ち熱にして、酒に投ずれば風を主る。豉と作せば極めて冷にして、黄卷及び醬は皆な平なり。牛これを食えば温、馬これを食えば涼、一体にして用は別なるも、大抵は宜しく藥使と作るのみ)」（『図経衍義本草』米穀部中品「生大豆」の引用による）とあることから分かる。なお、日本の本草色葉抄に「大豆：腐（タウフ）（作一則寒而動氣（注））」とあるのは、これによるものであろう。この「腐」は、「豆腐」の略称ともとれるし、すでに存在した「乳腐」のような食品ともとれる。

というのも、唐代には、これに先んじて「乳腐」という語が存在し、固めのチーズのようなものを意味していたからである。それは、『唐語林』に「穆氏兄弟四人、贊、賞、質、員。時人謂、贊俗而有格、為酪、質美而多文、為酥、員為醍醐、言粹而少用、賞為乳腐、言最為凡固也（穆氏の兄弟四人、贊、賞、質、員なり。時人の謂えらく、贊は俗にして格有れば、酪たり、質は美にして文多ければ、酥たり、員は醍醐たり、言は粹にして用少し、賞は乳腐たり、言は最も凡固たるなりと）」とあることから明らかである（同類の記事が、旧唐所、新唐書、唐国史補にも見える）。「酪」「酥」「醍醐」「乳腐」という四種の乳製品を以て、人品の比喻としたものであるが、穆賞のことを「乳腐」になぞらえ、「凡固」つまり、平凡で頑迷としているのは、四種の乳製品の中でも、「乳腐」が特に堅い存在であったことを暗示している。なお、『清異録』に引く隋の謝諷の『食経』に、料理名として「加乳腐」というものが挙げられているが、これは調理法の実態が不明なので、その語構成も分からず、「乳腐」の初出例として扱うのは問題があろう。

以上のことから、宋初に現れ、恐らくはそれ以前から存在した「豆腐」は、さらに古くからあった「乳腐」の「腐」を取って名付けられたものであると推測される。その時点では、「乳腐」と同様に固めのものだったのかもしれない。ただ、なぜその種の固形食品を「腐」という文字で表記したかについては、現

状では未詳と言わざるを得ない。^{注3}

「豆腐」は、おそらく民間の食品として流布したものであり、文人の作品に登場することは甚だ少ない。散文作品として有名なのは、『豆腐百珍』の巻末にも載せられる、南宋の楊万里の「豆盧子柔伝」である。これは韓愈の「毛穎伝」に似て、多くの文人が作った、物を擬人化した、戯作的な伝記である。内容を詳述する余裕はないが、主人公「豆盧鮒」の姓は、有名な復姓の「豆盧」を用い、名は「腐」に通じる「鮒」（孔子の息子の名でもある）を用い、「豆腐」を示している。字の「子柔」は、豆腐が柔らかいことを意味するが、それ以外にも多くの関連語がちりばめられている。「豆盧鮒」が達摩（磨に通じる）に認められ、「吾師所謂醍醐酥酪、子近之矣」と述べるのは、上述の『唐語林』の逸話を連想させる。その他「素餐」「腐儒」「白面書生」の語が用いられ、ライバルとして「公羊高」と「魚豢」（羊と魚）を配し、全体として、豆腐が仏教的な精進の食材であることを強調している。ともあれここでは、「豆腐」は固いものではなく、柔らかいものになっている。

同じく南宋の陸游の『老学庵筆記』巻七には、北宋の張揮が「豆腐、麵筋、牛乳之類」を蜜漬けにして出したところ、客の中で蘇軾ただ一人が喜んで食べた、という逸話を載せている。張揮は出家した人物であり、豆腐は、麵筋（生麩）、牛乳（加工して固形にしたものであろう）と並ぶ精進食材として挙げられているのであろう。この豆腐はあまり柔らかい感じがしない。

文人の詩について言えば、南宋の朱熹の「次劉秀野蔬食十三詩韻 其十二 豆腐」には、「世伝、豆腐本乃淮南王得術（世に伝う、豆腐は本と乃ち淮南王術を得ると）」という題注を付す。劉安が豆腐を発明したという説の濫觴である。詩自体は、「種豆苗稀、力竭心已腐。早知淮王術、安坐獲泉布（豆を種うるも豆苗は稀にして、力は竭き心は已に腐る。早く淮王の術を知らば、安坐して泉布を獲しものを）」というもので、「豆」と「腐」と、淮南王の錬金術を詠み込んだだけで、豆腐のことを直接詠っているわけではない。

また、晩年に故郷の山陰（紹興）に隠棲していた陸游が、嘉泰三年（1203）に詠んだ「鄰曲」では、「拭盤堆連展、洗脯煮黎祁（盤を拭いて連展を堆み、脯（ハミ）を洗って黎祁を煮る）」という句が見え、「黎祁」については、自注として「蜀人以名豆腐」とある。つまり、陸游が嘗て滞在した四川では、豆腐のこと

を方言で「黎祁」と呼んだということである。

全宋詩には、これ以外、咸淳年間(1265～1274)に吉州龍泉で豆腐の製造販売を業としていた老人が、死に臨んで詠んだという詩(元の劉燾の『隱居通義』によるもの)も載せるが、それを足しても、豆腐の詩は三首しか見えない。詩以外の文献にも、詞や禅語録を含めて、宋代の「豆腐」の用例は少ないというべきである。ただし料理書は別で、南宋初の林洪が著した『山家清供』は、江淮の食文化を反映していると思われるが、「雪霞羹」「河樞粥」「東坡豆腐」「自愛淘」の四者において豆腐が使用されている。北宋の『中饋録』に豆腐が見えないのに比べると、食材として普及していたことをうかがわせる。北宋の汴京を描いた『東京夢華録』に豆腐料理が見えず、南宋の臨安を描いた『夢梁録』に「煎豆腐」等の語が見えるのも、その傍証となろう。

元以降も、「豆腐」が詩に用いられることは少なく、雅語ではなく、実生活に即した語であったことがうかがえる。それ故、戯曲や白話小説での使用例は多くなり、現代に到るのである。

二 日本の「豆腐」の用例採集の方法

日本の文献上での初出は、春日大社記録で、寿永二年(一一八三)正月二日の条に「唐符一種」とある例が有名である。

日本における通時的な表記の状況を観察するため、筆者が現在までに繙読しつつ採集し得た、古文書・古記録上の「豆腐」の表記のヴァリエーションの具体的用例を整理する。調査に使用した資料は次の通りである。

a 古文書

○寧楽遺文・平安遺文・鎌倉遺文・南北朝遺文九州編・南北朝遺文中国四国編・戦国遺文後北条氏編(以上、東京堂出版)

○大仙院文書・澤氏古文書・近江大原観音院文書・北野神社文書・熊野那智大社文書米良文書・熊野那智大社文書・潮崎稜威主文書・熊野那智大社文書潮崎萬良文書・熊野那智大社文書橋爪文書・光明寺文書・入江文書・飯野八幡宮文書・相馬文書・大樹寺文書・賀茂別雷神社文書・気多神社文書・気多神社文書大宮司櫻井家文書・長楽寺文書・青方文書・朽

木家文書・京都御所東山御文庫所蔵地下文書・石清水八幡宮社家文書・籠手田文書(以上、史料纂集古文書編)

b 古記録

○貞信公記・小右記・御堂関白記・後二条師通記・中右記・殿曆・愚昧記・猪隈関白記・民経記・岡屋関白記・後深心院関白記・後愚昧記・建内記・碧山日録・蔗軒日録・言経卿記・梅津政景日記(以上、大日本古記録)

○史部王記・権記・台記・明月記・黄葉記・勘仲記・花園天皇宸記・師守記・園太曆・教言卿記・教興卿記・山科家札記・経覚私要鈔・師郷記・北野社家日記・言国卿記・十輪院内府記・政覚大僧正記・言継卿記・兼見卿記・義演准后日記・舜旧記・慶長日件録(以上、史料纂集)

○建治三年記・永仁三年記・八坂神社記録・愚管記・看聞御記・蔭涼軒日録・齋藤基恒日記・齋藤親基日記・親元日記・大乘院寺社雑事記・後法興院記・親長卿記・多聞院日記・家忠日記(以上、続史料大成)

○御産部類記・仙洞御移徙部類記・実隆公記(以上、その他)

加うるに、東京大学史料編纂所の奈良時代古文書・平安遺文・鎌倉遺文・古文書・古記録の各フルテキストデータベースの全文検索システムを使用した。想定されるあらゆる表記形で検索し、それにより検索できた用例の一々を、元のテキストで確認する作業を経た上で、用例として追加した。

三 古文書における「豆腐」

前節の採集方法により得られた、古文書中の七四例を左記に挙げる。

【日蓮聖人遺文】

1 日蓮聖人遺文、弘安三年(一一八〇)十月二十四日、日蓮書状(鎌倉遺文 一四一五三号)「すりたうふ」

【駿河大石寺文書】

1 駿河大石寺文書、弘安八年(一二八五)一月十二日、白蓮書状(鎌倉遺文 一五四〇四号)「うちたうふ」

2 駿河大石寺文書、弘安八年(一二八五)一月十二日、白蓮書状(鎌倉遺文

一五四〇四号)「すりたうふ」

3 駿河大石寺文書、嘉元三年(一二三〇五)十二月二十九日、白蓮書状(鎌倉遺文二二四六九号)「すりたうふ」

【駿河富士理境坊文書】

1 駿河富士理境坊文書、嘉元三年(一二三〇五)一月十二日、白蓮書状(鎌倉遺文二二四七〇号)「うちたうふ」

2 駿河富士理境坊文書、嘉元三年(一二三〇五)一月十二日、白蓮書状(鎌倉遺文二二四七〇号)「すりたうふ」

【東寺百合文書】

1 東寺百合文書へ函、延元元年(一二三三六)四月八日、八条院町年貢散用状(四九号)「タウフヤ」

2 東寺百合文書へ函、建武五年(一二三三八)、八条院町年貢帳(五四号)「タウフヤ」

3 東寺百合文書よ函、享徳四年(一二四五五)一月二十六日、播磨矢野莊学衆方年貢等算用状(一六五号)「豆腐」

4 東寺百合文書れ函、享徳四年(一二四五五)一月二十六日、播磨矢野莊供僧方年貢等算用状(九三三号)「豆腐」

5 東寺百合文書わ函、明心八年(一二四九九)九月二十日、実相寺南堀人夫人足注文(三九号)「たうふ」

6 東寺百合文書へ函、天文十九年(一二五五〇)十一月二十一日、酒樽等入足引替注文(二三四号)「たうふ」

【醍醐寺文書】

1 醍醐寺文書、康永二年(一二三三三)五月三十日、昼食献立注文(三四二四号)「タウフ」

2 醍醐寺文書、大永三年(一二五二三)一月十日、重順在京入目注文(二二〇号)「タウフ」

3 醍醐寺文書、大永三年(一二五二三)一月十日、重順在京入目注文(二二〇号)「タウフ」

【大徳寺文書別集真珠庵文書】

1 大徳寺文書別集真珠庵文書、永享八年(一二四三七)十二月日、妙超宗峯百

年忌銭下行帳(一一〇四号)「豆腐」

2 大徳寺文書別集真珠庵文書、永享八年(一二四三七)十二月日、妙超宗峯百

年忌銭下行帳(一一〇四号)「豆腐」

3 大徳寺文書別集真珠庵文書、永享八年(一二四三七)十二月日、妙超宗峯百

年忌銭下行帳(一一〇四号)「豆腐」

4 大徳寺文書別集真珠庵文書、永享八年(一二四三七)十二月日、妙超宗峯百

年忌銭下行帳(一一〇四号)「豆腐」

5 大徳寺文書別集真珠庵文書、永享八年(一二四三七)十二月日、妙超宗峯百

年忌銭下行帳(一一〇四号)「豆腐」

6 大徳寺文書別集真珠庵文書、明心二年(一二四九三)九月二十一日、宗純一

休十三年忌下行帳(一〇号)「豆腐」

7 大徳寺文書別集真珠庵文書、明心二年(一二四九三)九月二十一日、宗純一

休十三年忌出来物注文(三三三号)「豆腐」

8 大徳寺文書別集真珠庵文書、永正七年(一二五一〇)三月日、宗純一休十三

年忌食膳注文(一一号)「烧豆腐」

9 大徳寺文書別集真珠庵文書、永正七年(一二五一〇)三月日、宗純一休十三

年忌食膳注文(一一号)「烧豆腐」

10 大徳寺文書別集真珠庵文書、永正七年(一二五一〇)四月七日、宗純一休十

三年忌納下帳(一〇号)「豆腐」

11 大徳寺文書別集真珠庵文書、天正八年(一二五八〇)十月二十一日、宗純一

休百回忌下行帳(一五六号)「豆腐」

12 大徳寺文書別集真珠庵文書、天正八年(一二五八〇)十月日、宗純一休百年

忌配膳注文(一一五五号)「コタウフ」

13 大徳寺文書別集真珠庵文書、天正八年(一二五八〇)十月日、宗純一休百年

忌配膳注文(一一五五号)「タウフ」

14 大徳寺文書別集真珠庵文書、文禄三年(一二五九四)三月十一日、智徳院某

葬礼入用目録(五〇三号)「豆腐」

15 大徳寺文書別集真珠庵文書、文禄三年(一二五九四)三月、智徳院某葬礼入

用算用状(五〇四号)「豆腐」

16 大徳寺文書別集真珠庵文書、文禄三年(一二五九四)三月、智徳院某葬礼入

用算用状 (五〇四号) 「豆腐」

17 大德寺文書別集真珠庵文書、文祿三年 (一五九四) 三月、智徳院某葬礼入用算用状 (五〇四号) 「豆腐」

18 大德寺文書別集真珠庵文書、慶長四年 (一五九九) 二月二十七日、驢庵半井瑞桂請待入目小日記 (三一八号) 「豆腐」

19 大德寺文書別集真珠庵文書、慶長六年 (一六〇二) 十月十九日、真珠庵本坊東方作事小日記 (一六三号) 「豆腐」

20 大德寺文書別集真珠庵文書、慶長十二年 (一六〇七) 二月二十一日、宗桂月心田島寄進状 (三八六号) 「豆腐」

21 大德寺文書別集真珠庵文書、慶長十四年 (一六〇九) 七月二十一日、真珠庵庫司再興納下帳 (一一八号) 「豆腐」

22 大德寺文書別集真珠庵文書、慶長十四年 (一六〇九) 七月二十一日、真珠庵庫司再興納下帳 (一二八号) 「豆腐」

【建内記紙背文書】

1 建内記、文安四年 (一四四七) 九月紙背文書「唐布」(修南院光政)

2 建内記、文安四年 (一四四七) 十一月紙背文書「白壁」(大中臣師淳)

【大徳寺文書】

1 大徳寺文書、延徳二年 (一四九〇) 十一月十九日、清水荘五町田年貢納下帳 (一八三〇号) 「豆腐」

2 大徳寺文書、明応十年 (一五〇二) 二月一日、播磨小宅三職方算用状 (七〇〇号) 「豆腐」

3 大徳寺文書、文亀三年 (一五〇三) 十月二十九日、龍翔寺開山二百年忌納下帳 (二二二八号) 「豆腐」

4 大徳寺文書、永正四年 (一五〇七) 六月日、如意庵領西新開分地子注文 (二七三六号) 「豆腐屋」

5 大徳寺文書、享祿四年 (一五二九) 七月二十九日、龍翔寺錢納下帳 (二二二二号) 「豆腐」

6 大徳寺文書、天文七年 (一五三八) 三月九日、土御門敷地公事小日記 (一九四〇号) 「豆腐」

7 大徳寺文書、天文七年 (一五三八) 四月二十九日、土御門敷地公事小日記

(一九四〇号) 「豆腐」

8 大徳寺文書、天文七年 (一五三八) 十二月十六日、土御門敷地公事小日記 (一九四〇号) 「田楽豆腐」

9 大徳寺文書、天文八年 (一五三九) 二月二十九日、土御門敷地公事小日記 (一九四〇号) 「豆腐」

10 大徳寺文書、天文八年 (一五三九) 二月二十九日、土御門敷地公事小日記 (一九四〇号) 「豆腐」

11 大徳寺文書、天文八年 (一五三九) 二月二十九日、土御門敷地公事小日記 (一九四〇号) 「豆腐」

12 大徳寺文書、天文十六年 (一五四七) 二月九日、正印禪師二百年忌納下帳 (二六〇七号) 「豆腐」

13 大徳寺文書、天文十六年 (一五四七) 二月九日、正印禪師二百年忌納下帳 (二六〇七号) 「粉豆腐」

14 大徳寺文書、天文十六年 (一五四七) 二月九日、正印禪師二百年忌納下帳 (二六〇七号) 「豆腐」

15 大徳寺文書、天正十三年 (一五八五) 十月八日、正受院屋地子錢目錄 (二五四四号) 「豆腐屋」

16 大徳寺文書、天正十五年 (一五八七)、如意庵本坊屋根修補小日記 (二六二四号) 「豆腐」

17 大徳寺文書、天正十七年 (一五八九) 十一月、山城大宮郷大徳寺分檢地帳 (一九九八号) 「たうふ屋」

18 大徳寺文書、天正十七年 (一五八九) 十一月、山城大宮郷大徳寺分檢地帳 (一九九八号) 「豆腐屋」

19 大徳寺文書、天正十九年 (一五九二) 八月二十六日、大徳寺領土居内田畠指出 (二五六四号) 「豆腐屋」

20 大徳寺文書、天正二十年 (一五九二) 二月十一日、如意庵庫司屋根修補小日記 (二六二五号) 「豆腐」

21 大徳寺文書、文祿二年 (一五九三) 十二月三十日、大徳寺領内妙覚寺并西院年貢支配催促入目日記 (二五七三号) 「豆腐」

22 大徳寺文書、文祿二年 (一五九三) 十二月三十日、大徳寺領内妙覚寺并西

- 院年貢支配催促入目日記（二五七三号）「豆腐」
- 23大徳寺文書、文禄二年（一五九三）十二月三十日、大徳寺領内妙覚寺并西院年貢支配催促入目日記（二五七三号）「豆腐」
- 24大徳寺文書、文禄二年（一五九三）十二月三十日、大徳寺領内妙覚寺并西院年貢支配催促入目日記（二五七三号）「豆腐」
- 25大徳寺文書、文禄二年（一五九三）十二月三十日、大徳寺領内妙覚寺并西院年貢支配催促入目日記（二五七三号）「豆腐」
- 26大徳寺文書、慶長元年（一五九六）十月二十日、大徳寺領内妙覚寺分年貢支配入目日記（二五七四号）「豆腐」
- 27大徳寺文書、慶長四年（一五九九）十二月十三日、正受院屋地子指出（二五四五号）「豆腐や」
- 28大徳寺文書、元和元年（一六一五）八月三十日、大徳寺納所下行帳（二五九七号）「豆腐」
- 29大徳寺文書、元和元年（一六一五）八月三十日、大徳寺納所下行帳（二五九七号）「豆腐」
- 30大徳寺文書、元和元年（一六一五）八月三十日、大徳寺納所下行帳（二五九七号）「豆腐」
- 31大徳寺文書、元和元年（一六一五）八月三十日、大徳寺納所下行帳（二五九七号）「豆腐」
- 【島津家文書】
- 1 島津家文書、天正十六年（一五八八）六月六日、島津義弘書状（一四九三号）「たうふ」
- 【高野山文書又続宝簡集】
- 1 高野山文書又続宝簡集、慶長六年（一六〇一）十一月二十日、青巖寺并檢校支配帳（一二三四号）「豆腐」
- 【吉川家文書】
- 1 吉川家文書之二、元和三年（一六一七）四月二十六日、吉川広家自筆申渡簡条書（二三号）「豆腐」
- 2 吉川氏法度、元和三年（一六一七）四月二十六日、自前々年寄共申渡候个条（一号）「豆腐」

これら七四例を、左記に整理し、表とグラフにして示す。用例数は、文書点数ではなく、出現件数である。したがって、仮に通の文書中に三回出現した場合、それは用例数「3」としてカウントしてある。古文書の全用例について、五〇年毎の各表記の数を示したものが表1である。更に、それらの各表記について、グラフにしたものが図1である。

表1

	1280～	1330～	1380～	1430～	1480～	1530～	1580～
豆腐	0	0	0	7	10	9	29
唐布	0	0	0	1	0	0	0
白壁	0	0	0	1	0	0	0
たうふ	6	0	0	0	1	1	2
タウフ	0	3	0	0	2	0	2

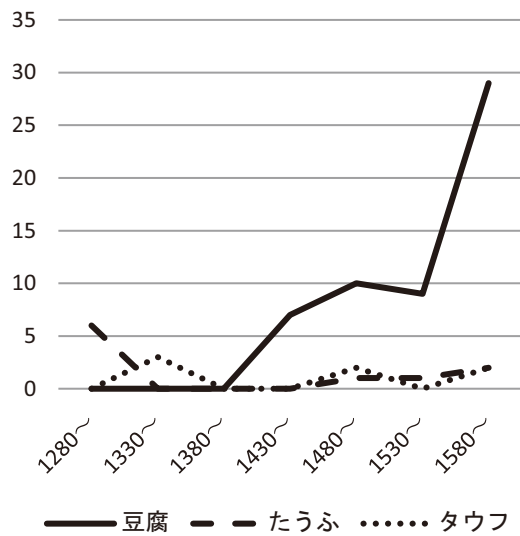


図1

以上から次のことが分かる。

- 一、中世の古文書に於いては、「豆腐」とその異表記がほとんどを占め、「白壁」はわずかである。
- 二、漢字表記としては、「豆腐」と記されることがほとんどで、「唐布」はわずかである。
- 三、十四世紀以前は、主に仮名表記の「たうふ」や「タウフ」が用いられ、

十五世紀以降は漢字表記の「豆腐」が次第に増えて、一般的になる。四、古文書全体を通じて見えてくるのは、「豆腐」の仮名表記から漢字表記への移行である。

四 古記録における「豆腐」

前々節の採集方法により得られた、古記録中の六〇〇例を左記に挙げる。

【九条家歴世記録】

- 1 九条家歴世記録、永享三年（一四三二）十月二十三日「白壁」
- 2 九条家歴世記録、永享四年（一四三三）二月十六日「たうふ」
- 3 九条家歴世記録、文龜元年（一五〇一）九月九日「白壁」

【看聞日記】

- 1 看聞日記、永享四年（一四三三）九月二十七日「白壁」

【建内記】

- 1 建内記、嘉吉三年（一四四三）一月十四日「当布」
- 2 建内記、嘉吉三年（一四四三）一月十五日「白壁」
- 3 建内記、嘉吉三年（一四四三）三月二十一日「白壁」
- 4 建内記、文安元年（一四四四）一月二十四日「白壁」
- 5 建内記、文安元年（一四四四）一月二十六日「白壁」
- 6 建内記、文安元年（一四四四）二月六日「白壁」
- 7 建内記、文安元年（一四四四）二月十五日「白壁」
- 8 建内記、文安四年（一四四七）一月五日「白壁」
- 9 建内記、文安四年（一四四七）一月十一日「白壁」
- 10 建内記、文安四年（一四四七）一月十一日「白壁」
- 11 建内記、文安四年（一四四七）一月十一日「白壁」
- 12 建内記、文安四年（一四四七）一月十二日「白壁」
- 13 建内記、文安四年（一四四七）一月二十二日「白壁」
- 14 建内記、文安四年（一四四七）二月二十六日「白壁」
- 15 建内記、文安四年（一四四七）九月十四日「白壁」
- 16 建内記、文安四年（一四四七）十月二十五日「白壁」

【大乘院寺社雑事記】

- 17 建内記、文安四年（一四四七）十一月十九日「白壁」
- 18 建内記、文安四年（一四四七）十一月二十四日「白壁」
- 19 建内記、文安四年（一四四七）十一月三十日「白壁」
- 1 大乘院寺社雑事記、康正三年（一四五七）二月十一日「キリカへ」
- 2 大乘院寺社雑事記、長祿元年（一四五七）十二月六日「白壁」
- 3 大乘院寺社雑事記、長祿元年（一四五七）十二月十九日「唐布」
- 4 大乘院寺社雑事記、長祿元年（一四五七）十二月十九日「唐布」
- 5 大乘院寺社雑事記、長祿二年（一四五八）一月五日「唐布」
- 6 大乘院寺社雑事記、長祿二年（一四五八）三月十五日「唐布」
- 7 大乘院寺社雑事記、長祿二年（一四五八）三月十六日「唐布」
- 8 大乘院寺社雑事記、長祿二年（一四五八）八月十三日「唐布」
- 9 大乘院寺社雑事記、長祿二年（一四五八）八月十五日「唐布」
- 10 大乘院寺社雑事記、長祿二年（一四五八）八月十九日「唐布」
- 11 大乘院寺社雑事記、長祿二年（一四五八）十二月六日「唐布」
- 12 大乘院寺社雑事記、長祿三年（一四五九）三月二日「白壁」
- 13 大乘院寺社雑事記、長祿三年（一四五九）八月十八日「唐布」
- 14 大乘院寺社雑事記、長祿三年（一四五九）八月二十二日「唐布」
- 15 大乘院寺社雑事記、長祿三年（一四五九）十二月十五日「唐布」
- 16 大乘院寺社雑事記、長祿三年（一四五九）十二月十七日「白壁」
- 17 大乘院寺社雑事記、長祿四年（一四六〇）一月十六日「唐布」
- 18 大乘院寺社雑事記、長祿四年（一四六〇）九月十二日「唐布」
- 19 大乘院寺社雑事記、長祿四年（一四六〇）十月十四日「唐布」
- 20 大乘院寺社雑事記、長祿四年（一四六〇）十一月十一日「唐布」
- 21 大乘院寺社雑事記、長祿四年（一四六〇）十一月二十三日「唐布」
- 22 大乘院寺社雑事記、長祿四年（一四六〇）十二月二日「唐布」
- 23 大乘院寺社雑事記、長祿四年（一四六〇）十二月十二日「唐布」
- 24 大乘院寺社雑事記、長祿四年（一四六〇）十二月十三日「唐布」
- 25 大乘院寺社雑事記、長祿四年（一四六〇）十二月十三日「唐布」
- 26 大乘院寺社雑事記、寛正二年（一四六一）一月二十八日「唐布」

- 27 大乘院寺社雑事記、寛正二年（一四六一）一月二十八日「唐布」
 28 大乘院寺社雑事記、寛正二年（一四六一）二月二十六日「唐布」
 29 大乘院寺社雑事記、寛正二年（一四六一）九月十五日「唐布」
 30 大乘院寺社雑事記、寛正二年（一四六一）十月七日「唐布」
 31 大乘院寺社雑事記、寛正二年（一四六一）十月十四日「唐布」
 32 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六二）一月二十七日「唐布」
 33 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六二）一月二十八日「唐布」
 34 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六二）二月十三日「唐布」
 35 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六二）七月二十九日「白壁」
 36 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六二）十月十四日「唐布」
 37 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六二）十月二十四日「唐布」
 38 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六二）十月二十六日「唐布」
 39 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六二）十月三十日「イリ唐布」
 40 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六二）十一月九日「唐布」
 41 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六二）十一月十二日「唐布」
 42 大乘院寺社雑事記、寛正三年（一四六一）十一月十五日「唐布」
 43 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）一月二日「唐布」
 44 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）一月十一日「唐布」
 45 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）一月十一日「唐布」
 46 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）一月十一日「唐布」
 47 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）二月二日「唐布」
 48 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）二月四日「唐布」
 49 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）三月十四日「唐布」
 50 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）八月二十一日「唐布」
 51 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）十月一日「唐布」
 52 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）十月十一日「唐布」
 53 大乘院寺社雑事記、寛正四年（一四六三）十一月十五日「唐布」
 54 大乘院寺社雑事記、寛正五年（一四六四）十二月三十日「唐布」
 55 大乘院寺社雑事記、寛正六年（一四六五）一月十一日「唐布」
 56 大乘院寺社雑事記、寛正六年（一四六五）十月二日「唐布」
 57 大乘院寺社雑事記、寛正七年（一四六六）一月十一日「唐布」
 58 大乘院寺社雑事記、寛正七年（一四六六）一月十一日「唐布」
 59 大乘院寺社雑事記、文正元年（一四六六）八月一日「唐布」
 60 大乘院寺社雑事記、文正元年（一四六六）十月二十一日「唐布」
 61 大乘院寺社雑事記、文正元年（一四六六）十一月四日「唐布」
 62 大乘院寺社雑事記、文正元年（一四六六）十二月四日「唐布」
 63 大乘院寺社雑事記、文正元年（一四六六）十二月五日「唐布」
 64 大乘院寺社雑事記、文正元年（一四六六）十二月十一日「唐布」
 65 大乘院寺社雑事記、文正元年（一四六六）十二月二十九日「唐布」
 66 大乘院寺社雑事記、文正二年（一四六七）二月三日「唐布」
 67 大乘院寺社雑事記、文正二年（一四六七）二月三日「唐布」
 68 大乘院寺社雑事記、応仁二年（一四六八）十月一日「唐布」
 69 大乘院寺社雑事記、応仁二年（一四六八）閏十月十七日「唐布」
 70 大乘院寺社雑事記、応仁二年（一四六八）十一月十一日「唐布」
 71 大乘院寺社雑事記、応仁三年（一四六九）二月四日「唐布」
 72 大乘院寺社雑事記、文明元年（一四六九）八月一日「唐布」
 73 大乘院寺社雑事記、文明元年（一四六九）十二月三十日「唐布」
 74 大乘院寺社雑事記、文明二年（一四七〇）二月六日「イリカへ」
 75 大乘院寺社雑事記、文明二年（一四七〇）二月二十四日「白壁」
 76 大乘院寺社雑事記、文明二年（一四七〇）八月一日「白壁」
 77 大乘院寺社雑事記、文明二年（一四七〇）十月二十六日「唐布」
 78 大乘院寺社雑事記、文明二年（一四七〇）十二月十五日「唐布」
 79 大乘院寺社雑事記、文明三年（一四七一）一月二十六日「唐布」
 80 大乘院寺社雑事記、文明三年（一四七一）九月十五日「唐布」
 81 大乘院寺社雑事記、文明三年（一四七一）十一月二日「唐布」
 82 大乘院寺社雑事記、文明三年（一四七一）十二月九日「唐布」
 83 大乘院寺社雑事記、文明四年（一四七二）三月五日「キリカへ」
 84 大乘院寺社雑事記、文明五年（一四七三）八月一日「唐布」
 85 大乘院寺社雑事記、文明五年（一四七三）十月十九日「唐布」
 86 大乘院寺社雑事記、文明六年（一四七四）一月二十五日「白壁」

- 87 大乘院寺社雑事記、文明六年(一四七四)八月一日「白壁」
- 88 大乘院寺社雑事記、文明六年(一四七四)十月二十一日「唐布」
- 89 大乘院寺社雑事記、文明七年(一四七五)十一月五日「唐布」
- 90 大乘院寺社雑事記、文明九年(一四七七)八月一日「白壁」
- 91 大乘院寺社雑事記、文明九年(一四七七)十月十五日「唐布」
- 92 大乘院寺社雑事記、文明九年(一四七七)十一月一日「唐布」
- 93 大乘院寺社雑事記、文明九年(一四七七)十二月十九日「唐布」
- 94 大乘院寺社雑事記、文明九年(一四七七)十二月十九日「唐布」
- 95 大乘院寺社雑事記、文明九年(一四七七)十二月十九日「唐布」
- 96 大乘院寺社雑事記、文明十年(一四七八)一月十日「唐布」
- 97 大乘院寺社雑事記、文明十年(一四七八)一月十日「唐布」
- 98 大乘院寺社雑事記、文明十年(一四七八)十二月十九日「唐布」
- 99 大乘院寺社雑事記、文明十一年(一四七九)一月二十五日「唐布」
- 100 大乘院寺社雑事記、文明十二年(一四八〇)一月十八日「唐布」
- 101 大乘院寺社雑事記、文明十二年(一四八〇)一月十九日「唐布」
- 102 大乘院寺社雑事記、文明十二年(一四八〇)十二月二日「唐布」
- 103 大乘院寺社雑事記、文明十三年(一四八一)七月三十日「唐布」
- 104 大乘院寺社雑事記、文明十三年(一四八一)十二月二十五日「白壁」
- 105 大乘院寺社雑事記、文明十四年(一四八二)一月十四日「唐布」
- 106 大乘院寺社雑事記、文明十四年(一四八二)八月一日「唐布」
- 107 大乘院寺社雑事記、文明十四年(一四八二)九月八日「唐布」
- 108 大乘院寺社雑事記、文明十五年(一四八三)九月十九日「唐布」
- 109 大乘院寺社雑事記、文明十五年(一四八三)十月十一日「イリ唐布」
- 110 大乘院寺社雑事記、文明十六年(一四八四)一月十四日「唐布」
- 111 大乘院寺社雑事記、文明十六年(一四八四)一月十六日「唐布」
- 112 大乘院寺社雑事記、文明十六年(一四八四)十一月六日「唐布」
- 113 大乘院寺社雑事記、文明十六年(一四八四)十一月十七日「唐布」
- 114 大乘院寺社雑事記、文明十七年(一四八五)一月二十五日「キリカハ」
- 115 大乘院寺社雑事記、文明十七年(一四八五)一月二十八日「唐布」
- 116 大乘院寺社雑事記、文明十七年(一四八五)二月二十九日「タウフ」
- 117 大乘院寺社雑事記、文明十七年(一四八五)八月一日「唐布」
- 118 大乘院寺社雑事記、文明十八年(一四八六)三月十九日「唐布」
- 119 大乘院寺社雑事記、文明十九年(一四八七)一月二十三日「唐布」
- 120 大乘院寺社雑事記、長享元年(一四八七)九月十七日「唐布」
- 121 大乘院寺社雑事記、長享元年(一四八七)九月十七日「唐布」
- 122 大乘院寺社雑事記、長享元年(一四八七)十月十八日「唐布」
- 123 大乘院寺社雑事記、長享元年(一四八七)十一月七日「唐布」
- 124 大乘院寺社雑事記、長享元年(一四八七)閏十一月二日「唐布」
- 125 大乘院寺社雑事記、長享元年(一四八七)閏十一月二十三日「唐布」
- 126 大乘院寺社雑事記、長享二年(一四八八)一月十一日「唐布」
- 127 大乘院寺社雑事記、長享二年(一四八八)一月十一日「唐布」
- 128 大乘院寺社雑事記、長享二年(一四八八)一月十二日「唐布」
- 129 大乘院寺社雑事記、長享二年(一四八八)一月十二日「唐布」
- 130 大乘院寺社雑事記、長享二年(一四八八)一月二十九日「唐布」
- 131 大乘院寺社雑事記、長享二年(一四八八)九月十四日「唐布」
- 132 大乘院寺社雑事記、長享二年(一四八八)九月三十日「唐布」
- 133 大乘院寺社雑事記、長享二年(一四八八)十二月十二日「唐布」
- 134 大乘院寺社雑事記、長享二年(一四八八)十二月二十八日「唐布」
- 135 大乘院寺社雑事記、長享三年(一四八九)一月十九日「唐布」
- 136 大乘院寺社雑事記、長享三年(一四八九)一月二十六日「キリカハ」
- 137 大乘院寺社雑事記、長享三年(一四八九)八月一日「唐布」
- 138 大乘院寺社雑事記、延徳元年(一四八九)九月十九日「唐布」
- 139 大乘院寺社雑事記、延徳元年(一四八九)十月二十五日「唐布」
- 140 大乘院寺社雑事記、延徳二年(一四九〇)九月二十二日「唐布」
- 141 大乘院寺社雑事記、延徳二年(一四九〇)十二月十一日「唐布」
- 142 大乘院寺社雑事記、延徳三年(一四九一)十一月二日「唐布」
- 143 大乘院寺社雑事記、延徳三年(一四九一)十二月十六日「唐布」
- 144 大乘院寺社雑事記、延徳四年(一四九二)一月二十二日「唐布」
- 145 大乘院寺社雑事記、延徳四年(一四九二)二月十四日「唐布」
- 146 大乘院寺社雑事記、明応元年(一四九二)十二月十七日「唐布」

- 147 大乘院寺社雑事記、明応二年（一四九三）二月二十二日「唐布」
 148 大乘院寺社雑事記、明応四年（一四九五）一月二十八日「白壁」
 149 大乘院寺社雑事記、明応五年（一四九六）十二月二十九日「唐布」
 150 大乘院寺社雑事記、明応六年（一四九七）十二月二十七日「唐布」
 151 大乘院寺社雑事記、明応七年（一四九八）八月一日「唐布」
 152 大乘院寺社雑事記、明応七年（一四九八）十二月二十四日「唐布」
 153 大乘院寺社雑事記、明応八年（一四九九）一月四日「唐布」
 154 大乘院寺社雑事記、永正四年（一五〇七）一月五日「唐布」

【実隆公記】

- 1 実隆公記、文明十七年（一四八五）三月十日「白壁」
 2 実隆公記、長享二年（一四八八）十一月二十一日「白壁」
 3 実隆公記、延徳元年（一四八九）十二月十日「白壁」
 4 実隆公記、延徳三年（一四九二）十一月二十一日「白壁」
 5 実隆公記、延徳三年（一四九二）十一月二十一日「白壁」
 6 実隆公記、延徳三年（一四九二）十一月二十二日「白壁」
 7 実隆公記、延徳三年（一四九二）十一月二十四日「白壁」
 8 実隆公記、明応元年（一四九二）十一月二十三日「白壁」
 9 実隆公記、明応五年（一四九六）一月二十五日「白壁」
 10 実隆公記、明応五年（一四九六）八月二日「白壁」
 11 実隆公記、明応五年（一四九六）十二月四日「白壁」
 12 実隆公記、永正八年（一五一二）一月十四日「白壁」
 13 実隆公記、大永四年（一五二四）八月十七日「白壁」
 14 実隆公記、大永四年（一五二四）八月十九日「白壁」
 15 実隆公記、大永四年（一五二四）十一月十三日「白壁」
 16 実隆公記、大永五年（一五二五）四月五日「壁」
 17 実隆公記、大永五年（一五二五）七月二日「壁」
 18 実隆公記、大永五年（一五二五）九月二十日「白壁」
 19 実隆公記、大永五年（一五二五）十月二十一日「白壁」
 20 実隆公記、大永五年（一五二五）十一月三日「白壁」
 21 実隆公記、大永五年（一五二五）十一月十日「白壁」

- 22 実隆公記、大永六年（一五二六）一月十九日「白壁」
 23 実隆公記、大永六年（一五二六）一月十九日「白壁」
 24 実隆公記、大永六年（一五二六）五月二十二日「壁」
 25 実隆公記、大永六年（一五二六）六月十日「壁」
 26 実隆公記、大永六年（一五二六）十月二十二日「白壁」
 27 実隆公記、大永七年（一五二七）四月三日「白壁」
 28 実隆公記、大永七年（一五二七）九月十四日「白壁」
 29 実隆公記、大永七年（一五二七）十一月五日「白壁」
 30 実隆公記、大永七年（一五二七）十二月二十五日「白壁」
 31 実隆公記、大永八年（一五二八）二月二日「白壁」
 32 実隆公記、大永八年（一五二八）二月十三日「白壁」
 33 実隆公記、大永八年（一五二八）三月二十三日「白壁」
 34 実隆公記、大永八年（一五二八）五月九日「壁」
 35 実隆公記、大永八年（一五二八）五月十六日「白壁」
 36 実隆公記、享禄元年（一五二八）閏九月二十五日「白壁」
 37 実隆公記、享禄元年（一五二八）十一月三日「白壁」
 38 実隆公記、享禄元年（一五二八）十二月二日「白壁」
 39 実隆公記、享禄二年（一五二九）一月四日「白壁」
 40 実隆公記、享禄二年（一五二九）五月十一日「白壁」
 41 実隆公記、享禄二年（一五二九）十月十五日「白壁」
 42 実隆公記、享禄二年（一五二九）十一月四日「白壁」
 43 実隆公記、享禄二年（一五二九）十一月二十四日「白壁」
 44 実隆公記、享禄三年（一五三〇）十月十八日「白壁」
 45 実隆公記、享禄五年（一五三二）四月十九日「白壁」
 46 実隆公記、天文元年（一五三二）十一月一日「白壁」
 47 実隆公記、天文元年（一五三二）十二月九日「白壁」
 48 実隆公記、天文元年（一五三二）十二月十四日「白壁」
 49 実隆公記、天文元年（一五三二）十二月十五日「白壁」
 50 実隆公記、天文二年（一五三三）一月十四日「白壁」
 51 実隆公記、天文二年（一五三三）一月十七日「白壁」

52 実隆公記、天文二年（一五三三）一月二十三日「白壁」

53 実隆公記、天文二年（一五三三）三月三日「白壁」

54 実隆公記、天文二年（一五三三）三月二十四日「壁」

55 実隆公記、天文二年（一五三三）七月二日「白壁」

56 実隆公記、天文二年（一五三三）七月四日「白壁」

57 実隆公記、天文三年（一五三四）閏一月十三日「白壁」

【政覚大僧正記】

1 政覚大僧正記、長享二年（一四八八）九月晦日「白壁」

【言継卿記】

1 言継卿記、天文二年（一五三三）十二月二十四日「白壁」

2 言継卿記、天文四年（一五三五）二月八日「白壁」

3 言継卿記、天文六年（一五三七）一月一日「白壁」

4 言継卿記、天文十三年（一五四四）一月二十四日「たうふ」

5 言継卿記、天文十三年（一五四四）十二月二十五日「豆腐」

6 言継卿記、天文十三年（一五四四）十二月二十五日「豆腐」

7 言継卿記、天文十三年（一五四四）十二月二十五日「豆腐」

8 言継卿記、天文十三年（一五四四）十二月二十五日「豆腐」

9 言継卿記、天文十三年（一五四四）十二月二十五日「豆腐」

10 言継卿記、天文十三年（一五四四）十二月二十五日「豆腐」

11 言継卿記、天文十三年（一五四四）十二月二十七日「豆腐」

12 言継卿記、天文十三年（一五四四）十二月二十九日「豆腐」

13 言継卿記、天文十四年（一五四五）一月十六日「豆腐」

14 言継卿記、天文十四年（一五四五）七月二十三日「たうふ」

15 言継卿記、天文十四年（一五四五）十一月十六日「豆腐」

16 言継卿記、天文十五年（一五四六）三月二十二日「豆腐」

17 言継卿記、天文十七年（一五四八）一月十一日「豆腐」

18 言継卿記、天文十七年（一五四八）二月十三日「唐腐」

19 言継卿記、天文十七年（一五四八）三月四日「唐腐」

20 言継卿記、天文十七年（一五四八）三月十三日「豆腐」

21 言継卿記、天文十八年（一五四九）八月二十日「たうふ」

22 言継卿記、天文十八年（一五四九）八月二十七日「壁」^{（注）}

23 言継卿記、天文十八年（一五四九）九月二十九日「豆腐」

24 言継卿記、天文十八年（一五四九）八月十一日「壁」^{（注）}

25 言継卿記、天文十九年（一五五〇）一月七日「豆腐」

26 言継卿記、天文十九年（一五五〇）一月七日「豆腐」

27 言継卿記、天文十九年（一五五〇）一月七日「豆腐」

28 言継卿記、天文十九年（一五五〇）一月九日「豆腐」

29 言継卿記、天文十九年（一五五〇）五月六日「豆腐」

30 言継卿記、天文十九年（一五五〇）十二月七日「豆腐」

31 言継卿記、天文十九年（一五五〇）十二月七日「豆腐」

32 言継卿記、天文十九年（一五五〇）十二月十二日「豆腐」

33 言継卿記、天文二十年（一五五一）一月十一日「豆腐」

34 言継卿記、天文二十年（一五五一）二月七日「豆腐」

35 言継卿記、天文二十一年（一五五二）八月二日「たうふ」

36 言継卿記、天文二十一年（一五五二）十二月十六日「豆腐」^{（注）}

37 言継卿記、天文二十二年（一五五三）十月十八日「豆腐」

38 言継卿記、天文二十二年（一五五三）十二月二十五日「たうふ」

39 言継卿記、天文二十二年（一五五三）十二月二十五日「豆腐」

40 言継卿記、天文二十二年（一五五三）十二月二十五日「豆腐」

41 言継卿記、天文二十二年（一五五三）十二月二十六日「豆腐」

42 言継卿記、天文二十三年（一五五四）三月二十四日「豆腐」

43 言継卿記、天文二十三年（一五五四）九月十一日「豆腐」

44 言継卿記、天文二十三年（一五五四）九月二十日「豆腐」

45 言継卿記、天文二十三年（一五五四）九月二十七日「とうふ」

46 言継卿記、天文二十三年（一五五四）九月二十八日「豆腐」

47 言継卿記、天文二十三年（一五五四）十一月七日「豆腐」

48 言継卿記、弘治元年（一五五五）一月十二日「豆腐」

49 言継卿記、弘治二年（一五五六）一月六日「豆腐」

50 言継卿記、弘治二年（一五五六）十月三十日「湯豆腐」

51 言継卿記、弘治二年（一五五六）十一月二十三日「湯豆腐」

- 52 言継卿記、弘治二年（一五五六）十一月二十四日「湯豆腐」
 53 言継卿記、弘治二年（一五五六）十一月二十九日「豆腐」
 54 言継卿記、弘治二年（一五五六）十一月二十九日「豆腐」
 55 言継卿記、弘治二年（一五五六）十二月二十八日「湯豆腐」
 56 言継卿記、弘治二年（一五五六）十二月七日「湯豆腐」
 57 言継卿記、弘治二年（一五五六）十二月十一日「湯豆腐」
 58 言継卿記、弘治二年（一五五六）十二月二十六日「湯豆腐」
 59 言継卿記、弘治二年（一五五六）十二月二十九日「湯豆腐」
 60 言継卿記、弘治三年（一五五七）一月一日「豆腐」
 61 言継卿記、永祿元年（一五五八）二月二十日「豆腐」
 62 言継卿記、永祿二年（一五五九）一月十二日「豆腐」
 63 言継卿記、永祿二年（一五五九）九月四日「豆腐」
 64 言継卿記、永祿二年（一五五九）十月二十五日「唐腐」^{〔注1〕}
 65 言継卿記、永祿二年（一五五九）十一月四日「豆腐」
 66 言継卿記、永祿二年（一五五九）十一月六日「タウフ」
 67 言継卿記、永祿三年（一五六〇）一月四日「豆腐」
 68 言継卿記、永祿三年（一五六〇）一月五日「豆腐」
 69 言継卿記、永祿三年（一五六〇）二月二十三日「たうふ」
 70 言継卿記、永祿六年（一五六三）一月二十二日「豆腐」
 71 言継卿記、永祿六年（一五六三）五月九日「豆腐」
 72 言継卿記、永祿六年（一五六三）六月二十六日「豆腐」
 73 言継卿記、永祿七年（一五六四）二月十一日「豆腐」
 74 言継卿記、永祿七年（一五六四）三月二十五日「豆腐」
 75 言継卿記、永祿七年（一五六四）七月十一日「豆腐」
 76 言継卿記、永祿八年（一五六五）十二月三日「豆腐」
 77 言継卿記、永祿八年（一五六五）十二月十八日「豆腐」^{〔注12〕}
 78 言継卿記、永祿九年（一五六六）十月六日「豆腐」^{〔注13〕}
 79 言継卿記、永祿十年（一五六七）十月十九日「豆腐」^{〔注13〕}
 80 言継卿記、永祿十年（一五六七）十一月三日「湯豆腐」
 81 言継卿記、永祿十年（一五六七）十一月十四日「豆腐」
- 82 言継卿記、永祿十年（一五六七）十一月二十二日「豆腐」^{〔注14〕}
 83 言継卿記、永祿十年（一五六七）十一月二十三日「豆腐」^{〔注15〕}
 84 言継卿記、永祿十年（一五六七）十二月二十一日「豆腐」^{〔注16〕}
 85 言継卿記、永祿十一年（一五六八）二月二十三日「豆腐」
 86 言継卿記、永祿十三年（一五七〇）九月十一日「豆腐」
 87 言継卿記、元龜二年（一五七二）二月二十六日「觀世豆腐」
 88 言継卿記、元龜二年（一五七二）十一月十八日「豆腐」
 89 言継卿記、元龜二年（一五七二）十一月十八日「豆腐」
 90 言継卿記、元龜二年（一五七二）十一月十八日「豆腐」
 91 言継卿記、元龜二年（一五七二）十一月十八日「豆腐」
 92 言継卿記、天正四年（一五七六）七月二十九日「豆腐」
 93 言継卿記、天正四年（一五七六）九月八日「豆腐」^{〔注17〕}
 94 言継卿記、天正四年（一五七六）十一月一日「豆腐」^{〔注18〕}
 95 言継卿記、天正四年（一五七六）十一月八日「豆腐」
 96 言継卿記、天正四年（一五七六）十一月九日「豆腐」^{〔注19〕}
 97 言継卿記、天正四年（一五七六）十一月十六日「豆腐」^{〔注20〕}
 98 言継卿記、天正四年（一五七六）十二月六日「豆腐」
 99 言継卿記、天正四年（一五七六）十二月十四日「湯豆腐」
 100 言継卿記、天正四年（一五七六）十二月二十日「豆腐」
 101 言継卿記、天正四年（一五七六）十二月二十五日「豆腐」
- 【舜旧記】
 1 舜旧記、天正十二年（一五八四）十二月二十七日「豆腐」
 2 舜旧記、天正十三年（一五八五）十二月九日「唐腐」
 3 舜旧記、天正十三年（一五八五）十二月十一日「唐腐」
 4 舜旧記、天正二十年（一五九二）十二月二十二日「唐腐」
 5 舜旧記、文祿五年（一五九六）一月五日「唐腐」
 6 舜旧記、文祿五年（一五九六）一月二十一日「唐腐」
 7 舜旧記、文祿五年（一五九六）七月十八日「豆腐」
 8 舜旧記、慶長元年（一五九六）十一月十一日「唐腐」
 9 舜旧記、慶長元年（一五九六）十二月二十九日「唐腐」

- 10 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月一日「唐腐」
 11 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月四日「唐腐」
 12 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 13 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 14 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 15 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 16 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 17 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 18 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 19 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 20 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 21 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 22 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 23 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月九日「唐腐」
 24 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月十二日「唐腐」
 25 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月十二日「唐腐」
 26 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月十六日「唐腐」
 27 舜旧記、慶長二年(一五九七)一月二十六日「唐腐」
 28 舜旧記、慶長二年(一五九七)二月十三日「唐腐」
 29 舜旧記、慶長二年(一五九七)五月十一日「唐腐」
 30 舜旧記、慶長二年(一五九七)六月十二日「唐腐」
 31 舜旧記、慶長二年(一五九七)十二月五日「唐腐」
 32 舜旧記、慶長二年(一五九七)十二月二十六日「唐腐」
 33 舜旧記、慶長三年(一五九八)一月三日「唐腐」
 34 舜旧記、慶長三年(一五九八)一月四日「唐腐」
 35 舜旧記、慶長三年(一五九八)一月六日「唐腐」
 36 舜旧記、慶長三年(一五九八)一月六日「豆腐」
 37 舜旧記、慶長三年(一五九八)一月十二日「唐腐」
 38 舜旧記、慶長三年(一五九八)二月二十五日「唐腐」
 39 舜旧記、慶長三年(一五九八)十一月二十日「豆腐」
 40 舜旧記、慶長三年(一五九八)十一月二十日「豆腐」
 41 舜旧記、慶長三年(一五九八)十二月三十日「唐腐」
 42 舜旧記、慶長三年(一五九八)十二月三十日「豆腐」
 43 舜旧記、慶長四年(一五九九)一月一日「唐腐」
 44 舜旧記、慶長四年(一五九九)一月一日「唐腐」
 45 舜旧記、慶長四年(一五九九)一月二日「唐腐」
 46 舜旧記、慶長四年(一五九九)一月七日「唐腐」
 47 舜旧記、慶長四年(一五九九)一月七日「唐腐」
 48 舜旧記、慶長四年(一五九九)一月二十日「唐腐」
 49 舜旧記、慶長四年(一五九九)九月十日「唐腐」
 50 舜旧記、慶長四年(一五九九)九月十日「唐腐」
 51 舜旧記、慶長四年(一五九九)十月九日「豆腐」
 52 舜旧記、慶長四年(一五九九)十二月二十九日「唐腐」
 53 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)一月四日「唐腐」
 54 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)一月二十四日「豆腐」
 55 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)二月四日「豆腐」
 56 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)二月十三日「唐腐」
 57 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)八月十三日「唐腐」
 58 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)九月二十六日「白壁」
 59 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)十一月十七日「唐腐」
 60 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)十一月十七日「唐腐」
 61 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)十二月二日「唐腐」
 62 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)十二月十日「唐腐」
 63 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)十二月十九日「唐腐」
 64 舜旧記、慶長五年(一六〇〇)十二月二十五日「唐腐」
 65 舜旧記、慶長六年(一六〇一)一月二日「唐腐」
 66 舜旧記、慶長六年(一六〇一)一月三日「唐腐」
 67 舜旧記、慶長六年(一六〇一)一月二十三日「豆腐」
 68 舜旧記、慶長六年(一六〇一)二月二十九日「唐腐」
 69 舜旧記、慶長六年(一六〇一)十二月二十六日「豆腐」

- 70 舜旧記、慶長六年（一六〇二）十二月二十七日「唐腐」
71 舜旧記、慶長八年（一六〇三）一月十五日「唐腐」
72 舜旧記、慶長八年（一六〇三）一月二十六日「唐腐」
73 舜旧記、慶長八年（一六〇三）二月十三日「唐腐」
74 舜旧記、慶長八年（一六〇三）四月十七日「唐腐」
75 舜旧記、慶長八年（一六〇三）十二月二十四日「唐腐」
76 舜旧記、慶長九年（一六〇四）一月五日「唐腐」
77 舜旧記、慶長十年（一六〇五）一月二十七日「唐腐」
78 舜旧記、慶長十年（一六〇五）一月二十九日「唐腐」
79 舜旧記、慶長十年（一六〇五）九月九日「唐腐」
80 舜旧記、慶長十年（一六〇五）十月二十九日「唐腐」
81 舜旧記、慶長十年（一六〇五）十二月二十五日「唐腐」
82 舜旧記、慶長十年（一六〇五）十二月二十日「豆腐」
83 舜旧記、慶長十年（一六〇五）十二月二十九日「唐腐」
84 舜旧記、慶長十一年（一六〇六）一月八日「唐腐」
85 舜旧記、慶長十一年（一六〇六）一月十日「唐腐」
86 舜旧記、慶長十一年（一六〇六）一月二十日「唐腐」
87 舜旧記、慶長十一年（一六〇六）十一月十日「唐腐」
88 舜旧記、慶長十一年（一六〇六）十一月二十日「唐腐」
89 舜旧記、慶長十一年（一六〇六）四月二十六日「唐腐」
90 舜旧記、慶長十一年（一六〇六）十二月二十四日「唐腐」
91 舜旧記、慶長十一年（一六〇六）十二月二十四日「唐腐」
92 舜旧記、慶長十二年（一六〇七）一月一日「豆腐」
93 舜旧記、慶長十二年（一六〇七）一月二日「唐腐」
94 舜旧記、慶長十二年（一六〇七）一月四日「唐腐」
95 舜旧記、慶長十二年（一六〇七）一月五日「豆腐」
96 舜旧記、慶長十二年（一六〇七）一月二十七日「唐腐」
97 舜旧記、慶長十二年（一六〇七）二月二十五日「唐腐」
98 舜旧記、慶長十二年（一六〇六）四月二日「唐腐」
99 舜旧記、慶長十二年（一六〇七）五月一日「唐腐」
- 100 舜旧記、慶長十二年（一六〇七）八月二十八日「唐腐」
101 舜旧記、慶長十三年（一六〇八）一月一日「唐腐」
102 舜旧記、慶長十三年（一六〇八）一月四日「唐腐」
103 舜旧記、慶長十三年（一六〇八）一月五日「唐腐」
104 舜旧記、慶長十三年（一六〇八）一月二十七日「唐腐」
105 舜旧記、慶長十三年（一六〇八）一月二十八日「唐腐」
106 舜旧記、慶長十三年（一六〇八）二月二十六日「唐腐」
107 舜旧記、慶長十三年（一六〇八）十二月二十五日「豆腐」
108 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）一月一日「豆腐」
109 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）一月一日「豆腐」
110 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）一月一日「豆腐」
111 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）一月二日「豆腐」
112 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）一月七日「豆腐」
113 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）一月十二日「豆腐」
114 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）一月十四日「豆腐」
115 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）一月十四日「豆腐」
116 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）一月十五日「豆腐」
117 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）一月二十五日「豆腐」
118 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）二月四日「豆腐」
119 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）閏二月二十六日「豆腐」
120 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）閏二月十三日「豆腐」
121 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）閏二月二十九日「豆腐」
122 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）五月二日「豆腐」
123 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）五月四日「豆腐」
124 舜旧記、慶長十五年（一六一〇）五月十八日「豆腐」
125 舜旧記、慶長十七年（一六一二）一月一日「豆腐」
126 舜旧記、慶長十七年（一六一二）一月五日「豆腐」
127 舜旧記、慶長十七年（一六一二）一月六日「豆腐」
128 舜旧記、慶長十七年（一六一二）二月一日「豆腐」
129 舜旧記、慶長十七年（一六一二）二月一日「豆腐」

- 130 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 三月一日「豆腐」
- 131 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 三月二日「豆腐」
- 132 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 三月三日「豆腐」
- 133 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 三月三日「豆腐」
- 134 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 三月三日「豆腐」
- 135 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 三月十六日「豆腐」
- 136 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 三月三日「豆腐」
- 137 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 五月十八日「豆腐」
- 138 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 九月十五日「唐腐」
- 139 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十一月二十五日「逗腐」
- 140 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十二月二十四日「豆腐」
- 141 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十二月二十七日「豆腐」
- 142 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十二月二十八日「豆腐」
- 143 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十二月二十八日「豆腐」
- 144 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十二月二十八日「豆腐」
- 145 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十二月二十九日「豆腐」
- 146 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十二月二十九日「豆腐」
- 147 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十二月二十九日「豆腐」
- 148 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十二月二十九日「豆腐」
- 149 舜旧記、慶長十七年(一六一二) 十二月二十九日「豆腐」
- 150 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 一月七日「唐腐」
- 151 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 一月十四日「唐腐」
- 152 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 三月二日「唐腐」
- 153 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 三月二日「唐腐」
- 154 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 三月二十六日「唐腐」
- 155 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 三月三十日「唐腐」
- 156 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 九月十一日「唐腐」
- 157 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十月三日「唐腐」
- 158 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十月十六日「唐腐」
- 159 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十一月九日「唐腐」
- 160 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十一月十日「唐腐」
- 161 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十一月十一日「唐腐」
- 162 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十一月十一日「唐腐」
- 163 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十一月十一日「唐腐」
- 164 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十一月十三日「唐腐」
- 165 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十一月十四日「唐腐」
- 166 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十二月二十八日「唐腐」
- 167 舜旧記、慶長十八年(一六一三) 十二月三十日「唐腐」
- 168 舜旧記、慶長十九年(一六一四) 一月二日「唐腐」
- 169 舜旧記、慶長十九年(一六一四) 一月五日「唐腐」
- 170 舜旧記、慶長十九年(一六一四) 二月四日「唐腐」
- 171 舜旧記、慶長十九年(一六一四) 三月二日「唐腐」
- 172 舜旧記、慶長十九年(一六一四) 三月二日「唐腐」
- 173 舜旧記、慶長十九年(一六一四) 七月十五日「唐腐」
- 174 舜旧記、慶長十九年(一六一四) 十二月二十九日「唐腐」
- 175 舜旧記、慶長二十年(一六一五) 一月一日「唐腐」
- 176 舜旧記、慶長二十年(一六一五) 一月三日「唐腐」
- 177 舜旧記、慶長二十年(一六一五) 一月十八日「唐腐」
- 178 舜旧記、慶長二十年(一六一五) 三月五日「唐腐」
- 179 舜旧記、慶長二十年(一六一五) 三月二十一日「唐腐」
- 180 舜旧記、慶長二十年(一六一五) 四月二十五日「唐腐」
- 181 舜旧記、元和元年(一六一五) 十月三日「唐腐」
- 182 舜旧記、元和元年(一六一五) 十二月二十一日「豆腐」
- 183 舜旧記、元和元年(一六一五) 十二月二十八日「唐腐」
- 184 舜旧記、元和二年(一六一六) 一月一日「唐腐」
- 185 舜旧記、元和二年(一六一六) 一月二日「豆腐」
- 186 舜旧記、元和二年(一六一六) 一月三日「豆腐」
- 187 舜旧記、元和二年(一六一六) 一月三日「豆腐」
- 188 舜旧記、元和二年(一六一六) 三月三日「豆腐」
- 189 舜旧記、元和二年(一六一六) 八月十八日「豆腐」

- 190 舜旧記、元和二年（一六二六）十月二十六日「唐腐」
- 191 舜旧記、元和二年（一六二六）十二月二十五日「唐腐」
- 192 舜旧記、元和四年（一六一八）一月十日「豆腐」
- 193 舜旧記、元和四年（一六一八）一月二十八日「豆腐」
- 194 舜旧記、元和四年（一六一八）七月三十日「唐腐」
- 195 舜旧記、元和四年（一六一八）十二月十八日「豆腐」
- 196 舜旧記、元和五年（一六一九）一月二日「豆腐」
- 197 舜旧記、元和五年（一六一九）一月二日「豆腐」
- 198 舜旧記、元和五年（一六一九）一月十五日「豆腐」
- 199 舜旧記、元和五年（一六一九）一月二十三日「豆腐」
- 200 舜旧記、元和六年（一六二〇）一月二日「豆腐」
- 201 舜旧記、元和六年（一六二〇）一月十二日「唐腐」
- 202 舜旧記、元和六年（一六二〇）二月二十一日「豆腐」
- 203 舜旧記、元和六年（一六二〇）二月二十二日「豆腐」
- 204 舜旧記、元和六年（一六二〇）二月二十六日「唐腐」
- 205 舜旧記、元和六年（一六二〇）四月二日「豆腐」
- 206 舜旧記、元和六年（一六二〇）五月十九日「豆腐」
- 207 舜旧記、元和六年（一六二〇）十月十二日「唐腐」
- 208 舜旧記、元和六年（一六二〇）四月二十八日「豆腐」
- 209 舜旧記、元和八年（一六二二）一月一日「豆腐」
- 210 舜旧記、元和八年（一六二二）一月一日「豆腐」
- 211 舜旧記、元和八年（一六二二）一月二日「豆腐」
- 212 舜旧記、元和八年（一六二二）一月三日「豆腐」
- 213 舜旧記、元和八年（一六二二）一月十三日「豆腐」
- 214 舜旧記、元和八年（一六二二）一月十五日「豆腐」
- 215 舜旧記、元和八年（一六二二）一月二十五日「豆腐」
- 216 舜旧記、元和八年（一六二二）二月一日「豆腐」
- 217 舜旧記、元和八年（一六二二）二月二十六日「豆腐」
- 218 舜旧記、元和八年（一六二二）六月二十七日「唐腐」
- 219 舜旧記、元和八年（一六二二）十一月九日「豆腐」
- 220 舜旧記、元和八年（一六二二）十一月九日「豆腐」
- 221 舜旧記、元和八年（一六二二）十一月十九日「豆腐」
- 222 舜旧記、元和九年（一六二三）一月十日「豆腐」
- 223 舜旧記、元和九年（一六二三）二月一日「豆腐」
- 224 舜旧記、元和九年（一六二三）三月十一日「豆腐」
- 225 舜旧記、元和九年（一六二三）九月八日「豆腐」
- 226 舜旧記、元和九年（一六二三）閏八月十三日「唐腐」
- 227 舜旧記、元和九年（一六二三）九月六日「唐腐」
- 228 舜旧記、元和九年（一六二三）十一月十二日「豆腐」
- 229 舜旧記、元和十年（一六二四）一月二日「唐腐」
- 230 舜旧記、元和十年（一六二四）一月四日「唐腐」
- 231 舜旧記、元和十年（一六二四）一月五日「唐腐」
- 232 舜旧記、元和十年（一六二四）一月十二日「唐腐」
- 233 舜旧記、元和十年（一六二四）一月十八日「唐腐」
- 234 舜旧記、元和十年（一六二四）一月二十四日「唐腐」
- 235 舜旧記、寛永元年（一六二五）七月十日「唐腐」
- 236 舜旧記、寛永三年（一六二七）一月二日「唐腐」
- 237 舜旧記、寛永三年（一六二七）一月十二日「唐腐」
- 238 舜旧記、寛永三年（一六二七）一月十四日「豆腐」
- 239 舜旧記、寛永三年（一六二七）二月二十六日「唐腐」
- 240 舜旧記、寛永四年（一六二八）一月二日「唐腐」
- 241 舜旧記、寛永四年（一六二八）一月二十日「唐腐」
- 242 舜旧記、寛永四年（一六二八）一月二十日「唐腐」
- 243 舜旧記、寛永四年（一六二八）一月二十四日「唐腐」
- 244 舜旧記、寛永四年（一六二八）三月二十六日「唐腐」
- 245 舜旧記、寛永四年（一六二八）十一月二十日「唐腐」
- 246 舜旧記、寛永五年（一六二九）一月十日「唐腐」
- 247 舜旧記、寛永五年（一六二九）二月二十六日「唐腐」
- 248 舜旧記、寛永五年（一六二九）三月十七日「唐腐」
- 249 舜旧記、寛永五年（一六二九）七月十四日「唐腐」

- 250 舜旧記、寛永六年（一六三〇）一月二日「唐腐」
- 251 舜旧記、寛永六年（一六三〇）二月二十六日「唐腐」
- 252 舜旧記、寛永六年（一六三〇）三月八日「唐腐」
- 253 舜旧記、寛永七年（一六三一）一月二日「唐腐」
- 254 舜旧記、寛永七年（一六三一）一月四日「唐腐」
- 255 舜旧記、寛永七年（一六三一）一月十一日「唐腐」
- 256 舜旧記、寛永七年（一六三一）一月十六日「唐腐」
- 257 舜旧記、寛永七年（一六三一）十一月十四日「唐腐」
- 258 舜旧記、寛永七年（一六三一）十一月二十五日「唐腐」
- 259 舜旧記、寛永八年（一六三二）一月五日「唐腐」
- 260 舜旧記、寛永八年（一六三二）一月八日「唐腐」
- 261 舜旧記、寛永八年（一六三二）一月十三日「唐腐」
- 262 舜旧記、寛永九年（一六三三）一月八日「唐腐」
- 263 舜旧記、寛永九年（一六三三）二月二十五日「唐腐」

【慶長日件録】

1 慶長日件録、慶長十二（一六〇六）年九月十四日「豆腐」

以上六〇〇例のうち、用例数の減少が見られる元和六年（一六二〇）以後の六四例を除く五三六例を、左記に整理し、表とグラフにして示す。古記録の全用例について、一〇年毎の各表記の数値を示したものが表2である。更に、それらの各表記について、グラフにしたものが図2である。

以上から次のことが分かる。

- 一、中世の古記録においては、「豆腐」系の異表記三種（「唐布」「豆腐」「唐腐」）が殆どを占め、「白壁」がある程度使用されるものの、他の表記は目立たない。図2は、「豆腐」系の三種の表記を抽出して作成した。
- 二、「豆腐」の漢字表記には、他に「当布」「逗腐」が見られるが、ごくわずかである。

三、「豆腐」の仮名表記「たうふ」「タウフ」「とうふ」もわずかである。

四、十五世紀には「唐布」が多く用いられるが、以後減少する。

五、十六世紀以降は、増減はあるものの、「豆腐」が主流となり、使用が増

表2

	1430～	1440～	1450～	1460～	1470～	1480～	1490～	1500～	1510～	1520～	1530～	1540～	1550～	1560～	1570～	1580～	1590～	1600～	1610～
唐布	0	0	13	56	19	36	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
唐腐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	2	43	46	38
当布	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豆腐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	36	18	16	1	6	9	53
豆腐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
逗腐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
たうふ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	0
タウフ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
とうふ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
白壁	2	18	3	1	5	5	8	1	1	26	16	2	0	0	0	0	0	1	0
壁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
カへ	0	0	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

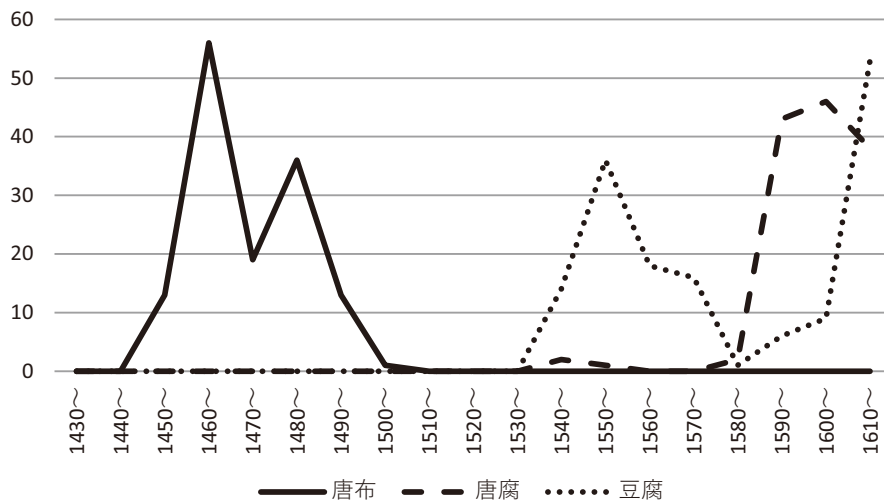


図2

大する。

六、十六世紀末から十七世紀にかけての一時期には、「唐腐」が多く用いられるが、最終的に「豆腐」に取って代わることは無い。猶、「唐腐」は、「唐布」と「豆腐」の混淆形と見られ、一時的な使用にとどまったと考えられる。

七、「白壁」は、増減はあるものの、十六世紀後半以降は減少する。

八、「白壁」の原形である「壁」や、その仮名表記「カヘ」が使用されることもあるが、多くはない。

九、古記録全体を通じて見えてくるのは、「唐布」から「豆腐」への移行である。

記主による個人差が観察されることも、見過ごすことのできない重要事項として指摘すべきであろう。これは、記主の属する階級や職業による違いと考えられ、位相差と解釈し得る。具体的には、今回採集された古記録中の六〇〇例のうち、個人により記載された古記録の例五九七例には、左記のような記主による個人差が認められる。

看聞日記（後崇光院貞成親王）：「白壁」（1例）

建内記（建聖院内大臣万里小路時房）：「白壁」（18例）・「当布」（1例）

大乘院寺社雑事記（大乘院尋尊）：「唐布」（137例）・「白壁」（11例）・「タウフ」（1例）・「カヘ」（5例）

実隆公記（内大臣三条西実隆）：「白壁」（51例）・「壁」（6例）

政覚大僧正記（大乘院政覚）：「白壁」（1例）

言繼卿記（権大納言山科言繼）：「豆腐」（84例）・「豆腐」（1例）・「唐腐」（3例）・「白壁」（3例）・「壁」（2例）・「たうふ」（6例）

例）・「とうふ」（1例）・「タウフ」（1例）

舜旧記（神龍院梵舜）：「唐腐」（169例）・「豆腐」（92例）・「逗腐」（1例）

「白壁」（1例）

慶長日件録（式部少輔舟橋秀賢）：「豆腐」（1例）のみ

右に示したように、記主による差異が顕著である。具体的に言えば、公家が「白壁」を使用する傾向が強く、僧侶が「唐布」若しくは「唐腐」を使用する

傾向が強い、という位相差が認められる。権大納言山科言繼は、永祿九年（一五六六）四月七日条その他において、「唐布」を「タウヌノ」、即ち唐木綿の意味で用いており、同形衝突を避けるためにも、豆腐の意味で「唐布」を使用することが無かったと考えられる。

五 「豆腐」の字音と表記

「豆腐」の「豆」の字音仮名遣いは、通常「トウ」とされている。しかし、中世においては、「豆腐」に多く開長音が用いられていたようである。先に挙げた「豆腐」の最古の表記とされる、寿永二年（一一八三）正月の春日大社記録の表記は「唐符」であり、「唐」の字音は「タウ」である。前節に挙げた古文書の仮名書き例も、古くは「たうふ」「タウフ」の例が圧倒的多数を占めていた。古記録においても、室町期には「唐布」「唐腐」の例が多い。また、次節に示すように、古辞書においても、「豆腐（傍訓、タウフ）」、「唐布（傍訓、タウフ）」を掲載するものが多い。以上の事例によれば、「豆腐」は元来「タウフ」と発音されていた可能性が高い。「豆腐」の表記に合わせて「トウフ」と読むようになるのは、後の変化なのであろう。古文書の調査では、仮名表記から漢字表記への移行が十四世紀末頃に確認され、古記録の調査では、「唐布」から「豆腐」への移行が、十六世紀初め頃に確認されたが、その背景にあるのは、「タウフ」から「トウフ」へという、緩やかな字音の変化なのであろう。

それでは、なぜ初めは「タウフ」という発音が使用されたのであろうか。元々、豆腐の実物（もしくは製法）が中国から伝わった際、その現実の発音も伝わった可能性が高い。伝来当初の、中国南方音における「豆腐」の実際の字音は、「唐布」の表記に対応する「タウフ」に近いものであったと推測される。つまり、「タウフ」は、唐宋音と呼ぶべきものである。「豆」の現代中国方言が、『漢字古今音表』によれば、閩南語・閩東語で「tau」、粵語で「tau」であり、『漢語方言字匯』によれば、福州語・潮州語で「tau」、広州語で「tau」であることを考えると、古くは「タウ」に近い発音が、福建より伝えられたものと推定される。

六 古辞書の記載内容とその位相

「豆腐」の表記のヴァリエーションについて、古辞書の掲載状況を見てみよう。平安時代初期より室町時代末期に成立した古辞書の当該語の記載内容を調べ、おおよそ時代順、場合により系統別に整理すると、以下のようになる。

尊経閣文庫蔵永祿八年(一五六五)写二卷本色葉字類抄
〔豆腐〕

本草色葉抄(鎌倉時代、一二八四年成立)

〔大豆：腐〕(作一則寒而動氣)

瀧田英二氏旧蔵本頓要集(室町中期写)

〔磨唐腐〕

無窮会神習文庫蔵撮壤集(江戸時代写)

〔豆腐〕

宮内庁書陵部蔵撮壤集(江戸中期写)

〔豆腐〕

東京大学文学部国語研究室蔵撮壤集(江戸中期写)

〔豆腐〕

陽明文庫蔵諸雜聞書(室町末期写)

〔豆腐〕

広島大学本和名集(室町末期写)

〔豆腐〕

亀井本和名集(慶長二十年(一六一五)写)

〔豆腐〕

桂本佚名古辞書(文亀二年(一五〇二)写)

〔豆腐〕

成實堂文庫蔵用心集(室町末期写)

〔豆腐羹〕

初心要抄(室町末期写)

〔豆腐羹〕

宣賢卿字書(室町後期宣賢自筆)

〔豆腐〕

天理図書館本和名集(室町末期写)

〔豆腐〕

天理図書館蔵国籍類書字書(寛永三年(一六二六)写)

〔豆腐〕

琉球和名集(江戸後期写)

〔豆腐之皮〕

村口本下学集(室町中期写)

〔豆腐〕

春林本下学集(室町末期写)

〔豆腐〕

教育大学本下学集(室町中期写)

〔豆腐〕

陽明文庫本下学集(室町中期～末期写)

〔豆腐〕

前田本下学集(室町末期写)

〔豆腐〕

文明十一年(一四七九)本下学集

〔豆腐〕

文明十七年本下学集

〔豆腐〕

榭原本下学集(室町末期写)

〔豆腐〕

亀田本下学集(室町時代写)

〔豆腐〕

天文二十二年(一五五三)本下学集

〔豆腐〕

永祿二年(一五五九)本下学集

〔豆腐〕

黒川本下学集(室町末期写)

- 〔豆腐〕
元和三年（一六一七）本下学集
〔豆腐〕
北野天満宮蔵佚名古辞書色葉集（室町後期写）
〔豆腐〕
元龜二年（一五七一）本運歩色葉集
〔豆腐〕（多部）
〔豆腐〕（津部）
〔白壁〕
静嘉堂文庫蔵運歩色葉集（室町末期写）
〔豆腐〕（多部）
〔豆腐〕（津部）
〔白壁〕
温故知新書（室町中期写）
〔豆腐〕唐布 白壁
塵芥（永正七年（一五一〇）以後宣賢自筆）
〔豆腐〕唐布 白壁
正宗文庫本節用集（室町後期写）
〔豆腐〕（或云白壁）
大谷大学本節用集（室町末期写）
〔豆腐〕（或云白壁、又云唐布）
増刊下学集（室町中期写）
〔豆腐〕（又云唐布）
龍門文庫蔵室町中期写節用集
〔豆腐〕（白壁、又唐布）
明応五（一四九六）年本節用集
〔豆腐〕（或作白壁、又云唐布）
玉里文庫本節用集（江戸初期写）
〔豆腐〕（白壁、又唐布）
岡田希雄旧蔵節用集（室町後期写）
- 〔豆腐〕（或白壁、又云唐布）
饅頭屋本節用集（室町末期刊）
〔豆腐〕
伊京集（室町末期写）
〔豆麩〕
〔豆腐〕（或曰白壁、又云唐布、豆麩同）
天正十八年（一五九〇）本節用集
〔豆腐〕（又云白壁、又云唐布）
早大本節用集（江戸初期写）
〔豆腐〕（或云白壁、又云唐名）
阿波国文庫本節用集（室町末期写）
〔豆腐〕（又白壁、唐布）
増刊本節用集（慶長一三年（一六〇八）写）
〔豆腐〕（又云唐布）
広本節用集（室町中期写）
〔白壁〕（豆腐異名、其色貌如璧玉、故云爾）
〔豆腐〕（或作唐布、又云白壁）
村口四郎蔵弘治二年本節用集（室町末期写）
〔豆腐〕（或云白壁、又云唐布）
東京大学附属図書館蔵弘治二年本節用集（江戸後期写）
〔豆腐〕（或云白壁、又云唐布）
永禄十一年（一五六八）本節用集
〔豆腐〕（或云白壁、又云唐布）
徳遊寺本節用集（室町時代末期写本の影写）
〔豆腐〕（或云白壁、又云唐布）
慶應義塾図書館蔵寛永十九年（一六四二）本節用集
〔豆腐〕（或云白壁、又云唐布）
和漢通用集（江戸初期写）
〔豆腐〕唐布（又云白壁）
高野山大学図書館本節用集（室町末期写）

「豆腐」

新写永禄五年本節用集（永禄五年（一五六二）本の影写）

「豆腐」（或白壁、又云唐布）」

永禄二年本節用集（永禄八年（一五六五）以後写）

「豆腐」（或云白壁、又云唐布）」

村井本節用集（慶長（一五九六）一六一五）頃写）

「豆腐」（或云白壁、又云唐布）」

両足院本節用集（寛永二十年（一六四三）以前写）

「豆腐」（或云白壁、又云唐腐）」

前田本節用集（永禄十年（一五六七）写）

「豆腐」（唐布、白壁）」

経亮本節用集（永禄八年（一五六五）以後写）

「豆腐」（唐布、白壁）」

天正十七年（一五八九）本節用集

「豆腐」（或云白壁、又云唐布）」

枳園本節用集（室町末期写）

「豆腐」（又云白壁、又云唐布）」

平安時代に原本が成立した辞書類では、唯一、二卷本色葉字類抄に「豆腐（傍訓、タウフ）」が掲載されている。しかし、他の字類抄諸本に、この語は収められていない。二卷本色葉字類抄は、下学集・節用集等による増補の跡が窺われる。したがってこの項目は、字類抄原撰本に元々収められていたものではなく、室町中期以降に補綴された語であると考えられる。

鎌倉時代の特殊辞書である本草色葉抄、太部第十六に「大豆：腐（作一則寒而動氣）」とあるのは、前述したように、蘇頌の『図経本草』の「作腐則寒而動氣」によるものである。大豆の項目下に大豆の種類及び大豆製品を挙げるが、その一つとして「腐」を示し、「タウフ」と訓じている。したがってこの項目全体が、中国の本草書に依拠した表記と注文であり、日本における「豆腐」の表記を考える上では参考にならない。

室町時代の意味分類体辞書である和名集類の多く、即ち撮壤集・諸雜聞書・広島大学本和名集・亀井本和名集・桂本佚名古辞書・成實堂文庫蔵用心集・初

心要抄・宣賢卿字書・天理図書館本和名集・天理図書館蔵国籍類書字書・琉球和名集は「豆腐」とする。それに対して、瀧田英二氏旧蔵本頓要集は「唐腐」の表記を採用している。「唐腐」は、古記録において、言継卿記に天文年間の例が見えるのを初めとして、舜旧記に多くの使用例が見られる。室町末期の古記録に多い「唐腐」の表記を、室町初期成立と推定される頓要集が既に示していることには、様々な解釈が成り立つであろう。

和名集類と同じく中世のシソーラス的辞書でありながら、ひとり盛行した下学集は、「豆腐」のみを掲出する。下学集の編者は東麓破衲と自称しており、東山の禅院の僧侶である可能性が高い。禅宗の僧侶が、漢籍の知識から、中国の正書法的な表記である「豆腐」を選択したであろうことは、想像に難くない。

室町時代のいろは分類体辞書である色葉字類は、実務的な文書用語を収める。北野天満宮蔵佚名古辞書色葉集は「豆腐」のみである。それに対して運歩色葉集は、「豆腐」として「タウフ」・「ヅフ」の二音、更にそれとは別に「白壁（傍訓、一カベ）」を収める。「白壁」は、女房詞の「おかべ」に由来する。「豆腐」の異名であるが、主として公家階級が使用する語である。運歩色葉集は、節用集との数次にわたる交渉が想定される。特に伊京集との共通語彙の割合が高く、また特殊表記や誤りの一致するケースが少なからず見出され、両者の関係は極めて密接である。運歩色葉集と伊京集との共通祖本において、「豆腐」の異名として、既に「白壁」の異名が注記されていたと想像される。

室町中期成立の五十音分類辞書である温故知新書は、「豆腐」「唐布」「白壁」の三者を示す。「白壁」も「タウフ」の異表記として掲出されている点も、節用集での「白壁」の扱いとは異なっており、注目すべきであろう。清原宣賢の編纂になる辞書塵芥は、宣賢自筆本が現存する。温故知新書と近縁関係にあるが、ここは「豆腐」「唐布」「白壁」とあり、「白壁」が「白壁」に改変されている。この改変は、節用集の阿波国文庫本・広本・和漢通用集・両足院本のよくな記載内容を持つ本の影響を受けたものであろう。

古本節用集は、調査した諸本二十九本の範囲では、「豆腐」のみ載せるものが二本、「豆腐」と「白壁」を掲載するものが一本、「豆腐」と「唐布」を掲載するものが二本、「豆腐」「白壁」「唐布」の三者を載せるものが十九本（うち

「布」を「名」に誤るもの一本)、「豆腐」「白壁」「唐布」の三者を載せるものが四本、「豆腐」「白壁」「唐布」「豆麩」の四者を載せるものが一本であった。これは、室町期の節用集が、基本的には漢籍に根拠を求めるといふ規範意識を表すとともに、古記録類に見られるような種々の異表記をも示そうとする編纂態度の現れであると考えられる。「豆腐」を「白壁」とすることにについては、和語の「しらかべ」という語源が忘れられて、広本節用集に「其色貌如^{へキ}壁玉」というような、別の理由付けで「白壁」が選ばれたものと推測される。ここで「白壁」は、豆腐の異名とされており、「白壁」より「白壁」の方が、いかにも漢籍に基づきそうな語と考えられたのではなからうか。実際には、中国での豆腐の異名もしくは形容として、「白壁」というものは見当たらない。なお、伊京集のみが「豆麩」という異表記を挙げるが、これは他に用例を見ない特殊なものである。あるいは同じ精進素材である連想から「麩」を用いたものであろうか。「豆麩」は、他の辞書に継承されることはなかった。

まとめ

以上の議論の要点は以下のとおりである。

- A、「豆腐」は純然たる漢語であるが、豆腐の実物(製法)の渡来とともに、その名称も伝えられた。ただし、初出例とされる寿永二年の「唐符一種」は、その字音を日本で当てた表記になっている。文献の影響が当初は少なかったことをうかがわせる。
- B、中世の古文書の用例を見る限り、「唐符」は一般的にならず、当初は仮名表記が主流であった。漢字表記の「豆腐」が一般化するのには、十五世紀以降である。
- C、中世の古記録においては、漢字表記の「豆腐」と、その異表記たる「唐布」「唐腐」が主流である。しかし、「唐布」は十五世紀以降減少するし、「唐腐」の使用は、十六世紀から十七世紀にかけての一時期にとどまる。
- D、古文書・古記録を通じて、最終的には「豆腐」が主流となり、現代に至る。

る。古い異表記の「唐符」やその系統の「唐付」は淘汰され、異名の「白壁」も文献の言葉としては減少する。

E、古辞書は全体としてこのような状況を反映し、主に、「豆腐」「白壁」「唐布」を掲載する。相互間に差異は見られるが、それは辞書の系統と対応する。

F、辞書ごとの個性が見られるのも興味深い。下学集のような漢籍に立脚したものは「豆腐」のみを挙げ、広本節用集は、「白壁」の単なる誤記と思われる「白壁」を、字音語として解釈を施している。

注

- 漢籍における「豆腐」の語誌について、初めて学術的に論じられたのは、篠田統氏の「豆腐考」(『風俗』八巻一号、一九六八)であり、それ以降、特にこれを凌駕する論考は見当たらない。氏は資料を博搜された結果、やはり『清異録』の記事を「豆腐」の初出とされている。一々記さないが、本章で取り上げた漢籍資料の多くは、すでに氏が指摘されているものである。
- 日本国語大辞典第二版の「とうふ」の項目の本草色葉抄の引用は「腐豆(タウフ)」とあり、誤っている。
- 上掲論文において、篠田氏は、「乳腐」の「腐」は、漢字の字義からは説明できないため、外来語を漢字表記したものであるという可能性を指摘されておられるが、これは卓見であろう。
- 「白壁(干)」とある。
- 「白壁(田楽)」とある。
- 「壁生干」とある。
- 万松軒等貴の三回忌のため豆腐を五十贈る。
- 「吸物(餅壁)」とある。
- 「吸物(壁に餅入)」とある。
- 「餅入豆腐」とある。
- 「餅(入唐腐)」とある。
- 「吸物(豆腐に餅入)」とある。

- 13 「餅（入豆腐）」とある。
- 14 「吸物（餅入豆腐）」とある。
- 15 「吸物（餅入豆腐）」とある。
- 16 「吸物（餅、豆腐）」とある。
- 17 「餅入豆腐」とある。
- 18 「餅入豆□（腐）」とある。
- 19 「餅入豆腐」とある。
- 20 「餅入豆腐」とある。
- 21 李珍華・周長楨編、一九九三年、中華書局。
- 22 北京大学中国語言文学系語言学教研室編、王福堂修訂、二〇〇三年、語文出版社。